

大阪府森林組合通信

2010.11 Vol.19

8月5日大阪府森林組合 第9回通常総代会が開催されました。

当組合は、第9回通常総代会を本年度は大阪府庁に近接する国民會館大ホールに会場を移し、8月5日午後2時より大阪府の小河保之副知事、泉佐野市の新田谷修司市長をはじめ、多数のご来賓をお迎えし、総代数239名(定数250人のうち欠員11名)中172名(内委任状59名)の出席を得て開催しました。



挨拶を行う古川組合長

提出議案

■第1号議案

「平成21年度事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案の承認について」

■第2号議案

「平成22年度事業計画の設定について」

■第3号議案

「平成22年度借入金の最高限度額の決定について」

■第4号議案

「平成22年度余裕金預け入れ先の決定について」

■第5号議案

「役員報酬の決定について」

■第6号議案

「役員退任慰労金の支給について」

以上6議案、いずれも原案通り可決・承認をいただきました。

ご挨拶

大阪府森林組合代表理事組合長

古川 光和

平素は、組合員の皆様には森林組合の運営に対し、格別のご厚情を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、国においては、昨年12月今後10年を用途に路網整備、森林施業の集約化及び必要となる人材育成を軸として、安定的な林業経営の基盤づくりや効率的な木材生産と供給体制を構築し、森林・林業を早急に再生していくこととする「森林・林業再生プラン」がコンクリート社会から木の社会へが公表されました。

平成21年度、当組合はこの施策である「森林整備加速化・林業再生事業」をはじめとする森林整備関係事業に組合員の皆様のご協力の基に積極的に取り組み、約730haの間伐や3,000mを超える作業路の開設を行うことができました。

また、機械化林産事業や各種木材の加工販売、「長期優良住宅」をはじめとする建築事業の推進など、府内産木材の販売・普及の取

組みを強化いたしました。

一方、近年好調が続けてきた森林土木リサイクル事業は競争激化により苦戦をしいられましたが、指定管理者業務においては、ほぼ目標どおりの実績を残すことができました。

その結果、平成21年度決算額は205,411万円の売り上げを確保し、事業管理費及び各種積立金を差し引いた税引き後当期剰余金も1,167万円を計上いたしました。

財務内容においても、合併以来の健全かつ安定的な経営状態であることを組合員の皆様にご報告させていただきます。

今後とも組合員の皆様の忌憚のないご意見を賜りながら、よりよい森林組合づくりに邁進して参る所存でありますので、なお一層のご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。



Contents

第9回大阪府森林組合通常総代会が開催	1
平成21年度決算報告	2
平成22年度事業計画	3
集約化施業を進めます	4
オフセットクレジット(J-VER)	4
購買品特別価格販売のお知らせ	5
大阪府内産材でつくる無垢の木のリフォーム	5
「アドプトフォレスト」の取り組みを進めています	6
大阪府民の森	6

「木根館」をリニューアル	7
カシナガ 猛威を振るう	7
ありがとう！無料感謝Day	7
道路沿いの森林の管理に関するお願い	7
林業技術・安全作業講習会のお知らせ	8
木材市況	8
皮むき丸太買取ります。備蓄できる方募集中！	8
日々活躍 組合職員紹介	8

平成21年度決算報告

貸借対照表（平成22年5月31日現在）

(単位：円)

科 目	内 訳	小 計	合 計	科 目	内 訳	小 計	合 計
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金・預金		980,096,272		買掛金		2,208,499	
さきもり基金		506,780,915		未払金		221,111,209	
受取手形	19,779,577			預り金		10,652,303	
売掛金・未収金	174,390,175			その他		14,397,219	
上記2項目の貸倒引当金	△ 8,500,000			基金預り金	504,000,000		
				組合拠出金	△ 88,100,000	415,900,000	
たな卸資産		185,669,752		流動資産合計			664,269,230
その他		19,815,436	1,706,945,759				
		14,583,384		固定負債			
流動資産合計				長期未払金		19,891,850	
固定資産				農林漁業資金借入金		34,263,708	
有形固定資産	998,066,140			林構施設借入金		119,381,663	
減価償却累計額	△ 548,590,468	449,475,672		預り保証金		10,212,500	
無形固定資産		3,727,988		退職金給付引当金		215,745,697	
				役員退任慰労引当金		6,922,023	
外部出資				その他引当金・積立金		521,640,834	
系統出資金		37,296,560		固定負債合計			928,058,275
系統外出資金		17,232,000		負債合計			1,592,327,505
外部出資金合計		54,528,560		(資本の部)			
				出資金		204,582,000	
その他の固定資産				出資金合計			204,582,000
農林業業資金貸付金	34,263,708			剰余金			
貸倒引当金	△ 1,500,000	32,763,708		準備金・積立金		346,273,935	
その他		5,000,000		当期末処分剰余金		109,258,247	
その他の固定資産		37,763,708		剰余金合計			455,532,182
				資本合計			660,114,182
固定資産合計			545,495,928	負債・資本合計			2,252,441,687
資産合計			2,252,441,687				

1. 受取手形の割引高は 0 円である。
2. 受取手形の裏書譲渡高は 0 円である。

損益計算書（平成21年6月1日～平成22年5月31日）

(単位：円)

科 目	小 計	合 計
I 事業総損益		
1. 収益	2,054,119,229	
2. 費用	1,569,638,205	
事業総利益		484,481,024
II 事業管理費		
1. 人件費	291,974,798	
2. 旅費交通費	11,466,447	
3. 事務費	12,369,134	
4. 業務費	9,148,058	
5. 諸税負担金	22,828,931	
6. 施設費	112,202,451	
7. 雑費	109,762	
事業管理費計		460,099,581
事業利益		24,381,443
III 事業外損益		
1. 事業外収益	10,453,672	
2. 事業外費用	15,793,696	
事業外損益		△ 5,340,024
経常利益		19,041,419
IV 特別損益		
1. 特別利益	12,923,383	
2. 特別損失	13,793,790	
特別損益		△ 870,407
V 利益剰余金		
税引前当期剰余金		18,171,012
法人税及び住民税額		6,500,000
当期剰余金		11,671,012
前期繰越剰余金		97,587,235
当期末処分剰余金		109,258,247

部門別損益計算書

(単位：円)

部 門 別	費 用	収 益	損 益
指 導 部 門	5,744,639	3,765,298	△ 1,979,341
販 売 部 門	149,109,579	145,704,257	△ 3,405,322
加 工 部 門	102,808,640	122,838,391	20,029,751
森林整備部門	1,311,975,347	1,781,811,283	469,835,936
合 計	1,569,638,205	2,054,119,229	484,481,024

平成21年度余剰金処分案

(単位：円)

摘 要	積算内訳	小 計	合 計
I 当期末処分剰余金			109,258,247
II 剰余金処分額			
1. 法定準備金	当期剰余金の1/5以上	5,000,000	
2. 任意積立金		10,000,000	15,000,000
III 次期繰越剰余金			94,258,247

平成22年度事業計画

1 管理運営の基本方針

組合としては、「森林・林業再生プラン」や政府の新成長戦略など、森林・林業を取り巻く情勢の変化を的確にとらえ、建築事業の業務拡大や森林整備加速化・林業再生事業など各種事業を導入するとともに、世界的な木材の需要の増加、低炭素社会づくりの動き等を背景に、川下の製材・加工事業者、チップ・パルプ製造企業等と連携した販路拡大に加え、新たにバイオコークス製造の取り組みなど木質バイオマス利用をさらに推進し、組合員の森林整備に繋げることにします。

また各事業の推進にあたり管理部門の運営強化をさらに進めるものとします。

2 重点取り組み事項

- 森林整備加速化・林業再生事業の推進、緊急雇用対策事業の着実な実行
- 森林施策計画の立案と森林施策の集約化、提案型集約化施策の推進
- 府内産木材の利用推進
- 森林バイオマス利用の推進
- 二酸化炭素の排出権取引（J・VER）に向けた取り組みを推進
- 中期経営にあたって新規事業の開拓

3 支店の取り組み

(1) 豊能支店

- 高耐久化処理木材（O&Dウッド）をはじめとする各種木材製品の加工製造と木材需要の拡大を推進する。
- 組合員からの間伐材の買い取りを推進する。

(2) 三島支店

- バイオコークス事業を推進する。
- 森林リサイクル事業を推進する。
- 地籍調査事業を推進する。

(3) 南河内支店

- 森林施策計画の立案を推進する。
- 提案型集約化施策を推進する。
- 地籍調査事業を推進する。

(4) 泉州支店

- 森林施策体制の強化と木材生産を推進する。
- 提案型集約化施策を推進する。

(5) 木材総括本部

- 木材共販所及び河内長野木材加工所の運営改善に努める。
- 原木、製品、チップなど幅広い府内産木材の効率的な流通を推進する。

(6) 建築事業部

- 府内産木材流通、販売を促進する。
- 長期優良住宅の販売を促進する。
- リフォーム工事の取り組みを強化する。

指導

当組合では、大きな変革の時期を迎えた日本の林業において、各種の情報の入手と提供を行うことで組合員の林業経営をサポートします。

- (1) 機関誌「大阪しんりんくみあい通信」を年2回発行し、組合員とのコミュニケーションツールに加え各種情報提供媒体として活用する。
- (2) 各市町村別に組織する地区林業推進協議会と連携し、研修会や農林業祭などへの参加など、さまざまな活動を通じて地域林業の振興のため地区活動の活性化を図る。
- (3) 今後、森林整備をする上で大きな役割を果たすとされている森林施策計画を立案し、計画的な森林整備につなげる。
- (4) 組合員に安全で正しい知識と技

販売

術を修得する機会を設けるため、林業機械の使用に関する講習会を開催する。

森林整備加速化・林業再生事業の流通コスト支援などを受けるとともに、提案型集約化施策（林産事業）から共販所、製材、建築事業までの一貫した事業運営を行うことによりコスト削減を進め、販路拡大を目指します。

- (1) 長期にわたる原木価格の低迷と、それに伴う出材意欲の減退により非常に厳しい運営を強いられる木材共販所は、提案型集約化施策（林産事業）などによる出材を進め、併設する森林バイオマス事業との連携により経営の収支均衡を図る。
- (2) 建築事業は、河内長野木材加工所との連携を強化し、顧客ニーズを的確に把握した商品の提供を行うことで府内産木材の流通活性化に向けた取り組みを強化する。

加工

- 本年度より能勢木材加工センターと高槻木材加工センターを統合し、丸棒と木材加工の技術の融合と販路の拡大により、幅広い商品の提供を行い収益力の向上を目指します。
- (1) 河内長野木材加工所（ウッドベースかわちながの）は品質の向上とともに生産効率を高め、建築事業部との連携や工務店などへの積極的な営業により、おさか河内材の販路拡大を図る。
- (2) 能勢木材加工センターは、大阪北部地域を中心マーケットとし、丸棒及び高耐久化処理木材「O

&Dウッド」など土木資材と各種木材加工の提案営業を強化する。

森林整備

昨年度より実施されている森林整備加速化・林業再生事業で間伐と林内路網の整備に取り組み、木材の搬出を強化します。また次年度より本格的に稼働する「バイオコークス事業」の施設整備に着手し実証事業を行うなど、森林バイオマス事業に取り組みます。

- (1) 森林整備
- 森林整備加速化・林業再生事業の計画的な実施
- 公共治山事業や造林補助事業による森林整備の推進
- 緊急雇用創出事業による森林整備の推進
- (2) 利用
- 森林土木事業、森林リサイクル事業などの森林バイオマス事業の推進
- バイオコークス実証試験事業
- 特殊伐採など専門技術を活用した事業の推進
- 地籍調査事業の計画的実施
- 指定管理による公共施設の円滑な運営
- 森林リクリエーション事業や緑化事業の推進
- 緑の雇用担い手育成対策事業による人材育成
- (3) 購買
- 優良苗木、林業用機械、林業用具の販売
- (4) 金融
- 日本政策金融公庫資金の転貸
- 現借入金（転貸資金）の償還事務
- 大阪府の委託を受けて行う林業木材産業改善資金の事務取扱

平成22年度損益計画書

1 部門別損益計画

(単位：千円)

部 門	費 用	収 益	損 益
指 導 部 門	7,575	2,500	△ 5,075
販 売 部 門	227,680	247,735	20,055
加 工 部 門	127,800	142,000	14,200
森林整備部門	1,179,510	1,635,091	455,581
合 計	1,542,565	2,027,326	484,761

2 事業総損益

(単位：千円)

I . 事業総利益	484,761
II . 事業管理費	458,700
III . 事業外損益	339
IV . 特別損益	0
V . 利益剰余金（税引前剰余金）	26,400

集約化施業を進めます

戦後植栽の森林が保育から利用の時期を迎え、いよいよこれまで掛けて来た投資を回収する時期に入っても、木材価格は依然低迷し、木を売ろうにも搬出費用のほうが高いという現実、林業意欲がますます減退する組合員さんが多いことと思われま

当組合では、木材の販路の拡大や中間コストの削減に努め、何とか森林所有者の方の収入アップに繋がるようにと取り組みを進めておりますが、木材価格の回復の兆しすら見えない状況です。



作業路の開設

木材価格の話

今から20年程前、樹齢約90年のヒノキを原木市場に出荷すると、無地の柱が取れるものは30万円／㎡くらいから、更に良質材では60万円／㎡の値をつけるものがありました。一等材は平均4万円／㎡程度となっていました。

ところがバブル崩壊に続き、台風や震災という災害を経て、更に木材価格は急降下し、現在は同等の木で5万円／㎡を越えるものが見られなくなり、1等材は1.3万円／㎡程度と、木材価格はおよそ4分の1程度に下がってしまったと言われています。

過去に立木を売っておられた林家の方は、「いくら安くなったからと言って、そのころ売れた価格の4分の1で売れと言うことか」と思われるかも知れませんが、現実はもっと厳しいものであります。

50～60年生のヒノキを間伐して売ると、枝打ちがされていても平均単価は1.5万円／㎡程度です。虫や腐り、枝打ちの染みなどがあると価格は更に下がってしまいます。

やはり、集約化施業による搬出コストの削減を図る必要があります。

新たな森林から得られる付加価値 オフセットクレジット（J-VER）

昨今、地球温暖化に影響を及ぼすとされる二酸化炭素に代表される温室効果ガスの排出削減や防止が叫ばれています。

企業、また個人レベルでも排出防止、もしくは削減に向けた様々な取り組みが進められています。が、どうしても削減できないという部分が存在するのも事実です。

その削減が困難な排出量を把握し、他所での取り組みによって二酸化炭素（カーボン）の排出削減、もしくは減少させた部分（クレジット）を購入することで相殺（オフセット）するというシステムに注目が集まっています。

代表的なものとしてグリーン開発メカニズム（CDM）がありますが、日本独自のシステムも創設され、運用がはじまっています。

それは環境省が平成20年11月に創設した、国内におけるプロジェクトにより実現された温室効果ガス排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度「J-VER（Japan-Verified Emission Reduction）」です。

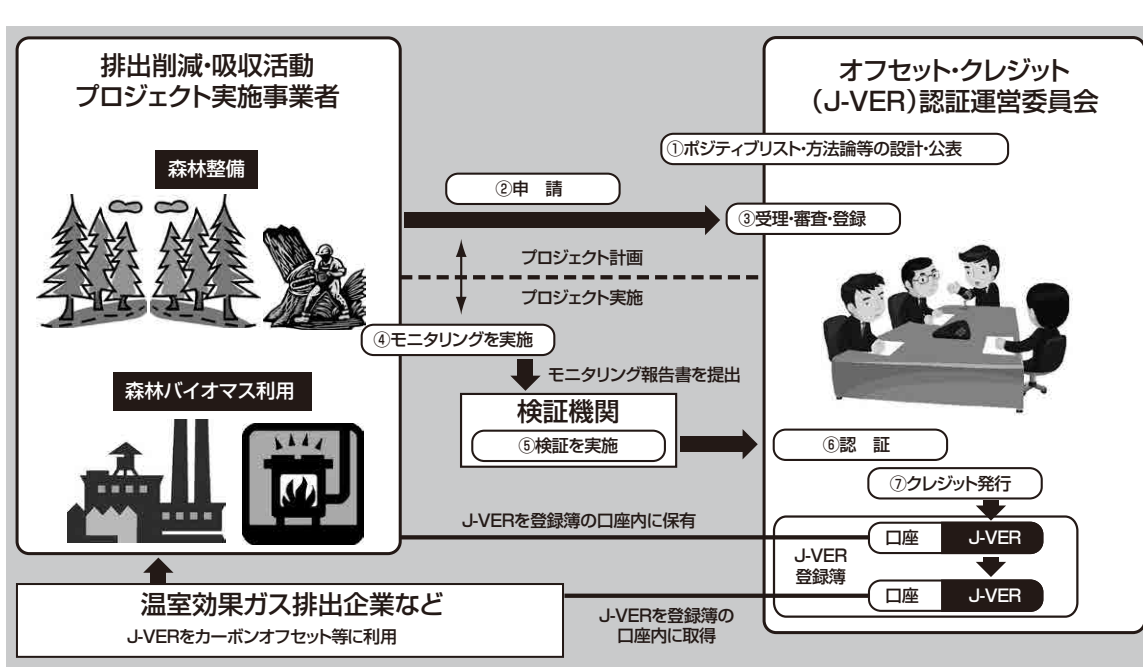
J-VERを簡単に説明すると、市民・企業・自治体などがカーボンオフセットを行うための資金が地方の森林整備や地域の地場産業などの国内の排出削減・吸収プロジェクト事業者に還流されるシステムを構築。民間資金を活用して地球温暖化防止と雇用・経済対策を一体的に推進することができグリーンニューディール促進策の一つとされています。

難しい言葉での説明になりましたが、身近な例を挙げると間伐施

業をし、森林の二酸化炭素吸収量が増加した部分がJ-VERの対象となります。

ただし現実には対象森林の各種の条件とともに、J-VER認証運営委員会への計画申請、審査の後、モニタリングの報告と第3者機関による検証、排出削減・吸収量の認証を経て、はじめてJ-VERが発行というフローを経る必要があります。

なかなか個人レベルでは、この手続きを行うのは困難ですし、申請や検証、登録するのに一定の費用が必要であり、かつ一定期間の主伐や土地転用などに制限が加わるなど、単純なクレジット取引では利益を出すことはおろか、デメリットのほうが多くなってしまうのが現状です。



組合員様 購買品特別価格販売のお知らせ
リョービ充電式刈払機「BK-2300」

このたび組合の購買事業の取扱製品で協力関係にあるリョービ販売株式会社とタイアップし、使って便利なガーデンツールの特別価格による販売を企画しました。
組合員の方々のみを対象としたお値打ち価格となっていますので、ぜひこの機会にご検討ください。

刈払機といえばエンジン式駆動でバリバリ草を刈るイメージですが、使う前に混合油を作らなきゃいけないし、エンジンのメンテナンスや調整が大変。
でも電気式はコードが必要だしパワーもない。
そんな刈払機のイメージを一新し、パワフルさと経済性を兼ね備えた商品をご紹介します。



リョービ「BK-2300」です。この刈払機はリチウムイオンバッテリーの採用で、22ccエンジン搭載の刈払機と同等のパワーを持ちながら、駆動音は20%低い設計。ランニングコストも1/10といったことづくめです。

しかも付属の急速充電器を使えば60分で充電可能。
ちよっと草の繁茂が気になる場所、騒音が気になる家の周りや田畑の草刈にはぴったりではないでしょうか？
標準刃はφ230のチップソーが付属されていますが、同径であ



ご注文・商品のお問い合わせは、**大阪府森林組合本店**
☎06(4964)0950まで。
お得な価格は平成22年12月末までです。
ぜひこの機会にご検討ください。

1時間あたりの作業時間	約25～45分 (ナイロンコード使用時は約18分)
1充電あたりの刈り込み面積	約30坪 (99.17㎡)



別売りの電池パック

刈刃 (mm)	計量チップソー 外径 230 × 内径 25.4 × 刃数 36
回転数	(高速) 5,500 回 / 分 (低速) 4,500 回 / 分
質量	5.5kg (刈刃カバー・肩掛バンドは含みません)
機体寸法 (mm)	(長さ) 1,735 × (幅) 620 × (高さ) 440
電池パック	B-2530L リチウムイオン 25.2V・3,000mAh
充電器	UCB-2800L (入力電源) 100V・(入力容量) 236VA
充電時間 (分)	約 60 分
付属品	計量チップソー (230mm)・保護メガネ・六角棒レンチ・ドライバースOCKET 刈刃カバー・肩掛バンド・飛散防護カバー・充電器・電池パック

~~メーカー希望小売価格
73,500円 (税込)~~

■今回特別価格
35,900円 (税込)
しかも大阪府内なら

送料無料

建築事業部
最新プロジェクト

大阪府内産材でつくる

リフォームにも積極的に
取り組んでいます

本誌でも新築のお知らせをさせていただくことが多い建築事業部ですが、リフォーム工事も多数施工させていただき、ご好評をいただいております。キッチンやトイレの最新機器への付け替えと合わせて、無垢材フローリング貼り替え工事などを行いますと、経済的にも大変お得です。お見積りは無料ですので、お気軽にお問い合わせください。

シックハウスでお悩みの方は 無垢材フローリングがおすすめ

シックハウスでお悩みのお客様には、無垢の杉材でのリフォーム



▲リフォーム工事前



▲リフォーム工事後
美しいキッチンに仕上がりました

無垢の木のリフォーム

をお薦めします。集成材と違い、接着剤で固めていませんので、有害物質を発生させる恐れがなく、さらに、無垢材から発散されるフィトンチッドという香り成分には免疫力を高める効果があると言われています。また、調湿効果もあり、シックハウスの一因とされるカビの発生防止にも効果があります。

住宅エコポイント延長決定 ポイント対象も拡充

建築事業部でも多数施工しております住宅エコポイント対象リフォームにつきまして、9月10日に閣議決定された「新成長戦略実現に向けた3段階の経済対策」において、住宅エコポイント制度の延長が位置づけられました。ポイント発行対象も節水型便器や高効率給湯器などにも拡充する方針で、ますますお得にリフォーム工事を行えます。ぜひこの機会にご検討ください。

見学会の他、さまざまなイベントを開催しておりますので、ホームページをご覧ください。建築事業部までお気軽にお問合わせください。

(お問合わせ 建築事業部)
0120(630)854

問
合わせ

0120(630)854
<http://www.sinn.org>

組合員様限定 建築工事費特別割引を実施

工事価格の **5%割引** 致します。

組合員様向けサービスの一環として、建築工事費特別割引を実施致します。新築・リフォームをお考えの組合員様は是非、お問合わせください。

- 対象：組合員様
- 割引：建築工事価格の5%を割引

**リフォーム工事も
割引対象です!!!**

長期優良住宅完成見学会

10月に構造見学会を開催させていただきました。河内長野市千代田台で施工中の長期優良住宅が、12月下旬に竣工を迎えます。今回も施主様のご協力のもと、完成見学会を開催させていただきますので、是非この機会に、おおさかの木でつくる長期優良住宅をご体感ください。

○日時：平成22年12月下旬

○場所：河内長野市千代田台

※詳細が決まり次第、建築事業部ホームページに掲載します。

企業参加による森づくり

「アドプトフォレスト」の取り組みを進めています。

森林は、木材の生産の他に水源のかん養、山地災害の防止、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全など多くの公益的機能を有しています。しかし、生活様式の変化や、木材価格の低迷等による林業採算性の悪化により、放置される森林が増加しています。

解を得ながら進めていくこととされています。

【参考】

府内で30社・団体がアドプトフォレストに参加（平成22年10月末現在）

このことから、大阪府では平成17年度に「アドプトフォレスト制度」を立ち上げ、森の手入れが出来る困っている森林所有者の方と社会貢献の一貫として森づくり活動に関心のある企業等をつなぎ、企業等による森づくり活動を進めています。このアドプトフォレストでは、①地球温暖化防止に貢献する森 ②災害や防災に強い森 ③生物多様性に富んだ森 ④府民が憩える森を森林所有者皆様方の理



企業や団体の力で元氣な森を作ります。



アドプトフォレスト制度の仕組み



【アドプトフォレストに関するお問合せ先】

■環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課

06(6941)0351(代)

■各農と緑の総合事務所緑地整備課

(北 部) 三島府民センター内 072(627)1121(代)
(中 部) 中河内府民センター内 072(994)1515(代)
(南河内) 南河内府民センター内 0721(25)1131(代)
(泉 州) 泉南府民センター内 072(439)3601(代)

森林所有者のみなさまへ

大阪府では企業等による森づくり活動地としてご提供いただける森林を探しています。

森の手入れをしてほしい!でも自分では出来ない、と困っていませんか?

そういう方は左記にご連絡ください。森の手入れを手伝ってくれる企業や団体を大阪府がご紹介します。

【対象となる森林】

- アドプトフォレスト制度の趣旨に賛同し、活動する団体とともに森林の手入れを行う方の森林
- 間伐等の手入れが遅れ、不足した人工林や放置されやぶ状化し、荒廃等した里山や竹林

※ただし、作業困難地等(急傾斜地等)活動が困難な場合はご希望に添えない場合があります。



大阪府民の森

大阪府民の森は、府政100年の記念事業として金剛生駒紀泉国定公園の主として生駒山系において、府民の健康で文化的な生活を確保することを目的として設置された自然公園施設であり、交野市、四条畷市、東大阪市、八尾市、千早赤阪村の4市1村に跨る約613haの森林公園です。

府民の森の整備は昭和40年代の前半から進められました。昭和40年代の生駒山系は、尾根部にはササの密生地があつて樹林は薄く、相観的にはマツ山で樹齢も比較的小さいものでした。当時、山林調査で林内に入ると衣服が真っ黒になったことを覚えています。クヌギ、コナラの葉っぱの裏側を見ると気孔に沿ってススが山形に溜まっており、大気汚染の現実を見た思いでした。

この様な森林を府民が憩える森にするため、管理用の道路や防火設備などの基盤的な整備と併せて、ヤマザクラやコブシ、ヤマボウシなどの花木や早期緑化と山地保全のため、カイヅカイブキやヤシヤブシなど、また照葉樹林の構成種であるシイやカシ、ヤマモモなど高木、低木を併せて20数万本の樹木が植栽されたと聞いております。

昭和から平成への移行期には、マツクイムシの激害により、マツはほとんど姿を消してしまい、コナラが優勢な林に変わって来ました。

府民の森は現在、豊かな樹林に覆われ、新緑から紅葉まで四季折々の変化を楽しめる雑木林の森林公園になっています。森林への

アクセスも平成になって整備された「らくらく登山道」(なるかわ園地)や森林鉄道風歩道橋、国内でも屈指の人道吊り橋「星のプランコ」(ほしだ園地)など、醍醐味のある視点から森林を楽しむことが出来るようになり、多くの利用者を楽しませています。

この府民の森を核として、生駒山系全体がクヌギ・コナラの林に包まれ、春先にはヤマザクラやカスミザクラの花影が霞んで「花屏風」の趣があり、歴史ある生駒山系も開闢以来の景観となっています。

江戸時代中期、当時の「郷帳」(当時の山林台帳)には、目下地域の山域の2/3が疎林か草地(ササ地)で、薪炭林や農用林として盛んに利用され、林地は既に相当疲弊していたことが分ります。

生駒山系の山林利用では林業的に見るべきものは少ないようですが、例えばこの地域の旧家には非常に立派なアカマツの梁があり、



生駒山系府民の森「花屏風」

古老の話では生駒の山から切り出されたものであるとのこと。また、今も残る山麓部の窯跡は、炭づくりの歴史を物語っています。

現在、府民の森のコナラ林にも新聞紙上を賑わせているカシノナガクイムシによる脅威が迫っています。この病害の予防方法は未だ確立されていないようですが、予防のためには50年生前後の過熟化したコナラ林を出来るところから計画的に更新して行くことが必要です。

生駒山系の600haに及ぶ府民の森もシロダモなどが生育して薄暗い森になってゆく区域もありますが、人が集う区域などは現在の明るい雑木林の魅力に勝るものではなく、四季を感じるものの出来る雑木林や森閑とした薄暗い森まで多様な森への誘導も府民の森の今後の課題です。

このような中で、コナラ林の健全化については、以前、薪炭林や農用林として15年から20年のサイクルで循環していた雑木林を木質系バイオマス利用を促進することで新たな循環を再生し、森林を健全化していく手法の確立が求められています。

大阪府森林組合が取り組まれているバイオコークスの実用化などもこれ等の山林の健全化にとって、なくてはならない技術になって行くのではないかと期待されます。

生駒山系の府民の森が活力を持つて後世に引き継がれて行くことを願うものです。

今回は、財団法人大阪府みどり公社緑化部長の白井武さんに大阪府民の森をご紹介いただきました。

河内長野市立林業総合センター「木根館」をリニューアル

木根館（きんこんかん）の愛称

で親しまれている河内長野市立林業総合センターは地域の森林資源の保護・育成と林業再生を目的とし、広く市民に森林や地域で生産される木材の素晴らしさを体感してもらうことができる林業の拠点施設として平成2年9月に開設され今年で20周年を迎えました。

主な施設は、木のぬくもりと創造の楽しさを味わえる木工教室、林業者の研修会や市民等への啓発普及として講演会や会議ができる大小2つの会議室と森林に関する展示等が可能な展示資料室で構成されています。この施設は、河内長野市より指定管理者として大阪

府森林組合南河内支店が管理運営を行っています。

施設開設20周年を迎え、展示内容の刷新、環境教育分野の情報発信、各種イベントの開催など更なる施設の充実を図って参ります。

その第一弾として大阪芸術大学生等による作品展「木の肌と香り展」を平成22年8月20日～12月26日まで開催しています。

また、リニューアルの特別企画として平成22年11月20日～23日の4日間、「奥河内の木の作家たち」と題して、地元（奥河内）で創作活動をしている6名の木工作家による作品の展示を行います。新しくなった木根館に是非お立ち寄り

お問い合わせ

0721(64)8151

ください。

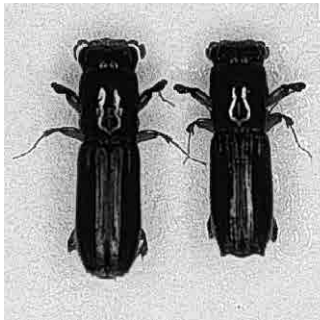


「木の肌と香り展」の様子

カシナガ 猛威を振るう

前号で紹介し、大阪府内でも被害が確認された「カシノナガキクイムシ（通称…「カシナガ」）」ですが、カシナガが飛翔するといわれる6月以降、枯死被害が拡大しています。

特に五山の送り火で有名な京都の東山地区では、深刻な被害となっており、赤茶けた広葉樹林は



カシノナガキクイムシ（左：♀、右：♂）

古都の景観を阻害するだけでなく、五山の送り火による枯死したナラの延焼が予測されるため、送り火の規模の縮小に迫り込まれています。

想されます。当組合としても府域の被害拡大を防ぐため、最新の駆除対策や他府県での情報を入手しながら、森林総合研究所関西支所や関係各所の指導を仰ぎたいと考えています。具体的には平成23年度まで実施される森林整備加速化事業のメニューを活用し、被害木の伐倒及び薬剤を使用したくさん蒸処理による駆除作業を進めるとともに、天然林の利用を進め、適切な更新が図られるよう取り組みを進めていきたいと考えています。

ナラ枯れはカシナガに付着する糸状菌によって導水管が詰まり枯死に至るといわれており、樹勢が弱まった高齢木に被害が集中しています。

大径木が枯死すると土砂の流出防止や崩壊防止機能が低下するとともに、倒木により森林内の自然の更新の妨げになるなど、森林環境に深刻な影響を及ぼすことが予

前号のカシノナガキクイムシの記事で関連する写真の出版の記載が漏れておりました。関係者の方々にお詫び致しますとともに、改めて出典クレジットをお知らせします。写真は「独立行政法人森林総合研究所関西支所」からお借りいたしました。

ありがとう！無料感謝Day

大阪府立総合青少年野外活動センターは、自然に親しみながら青少年の健全育成をはかる施設として昭和42年4月に設置されました。

平成18年4月からは、指定管理者として大阪府森林組合が管理運営を行っています。

しかし、施設の老朽化や大阪府の財政事情等の理由により、残念ながら平成23年3月末をもって閉所する予定となりました。370万人を超える方々が利用し、公的野外活動施設の草分けであり、かつて東洋一のキャンプ場といわれた施設の閉鎖は残念な限りです。

そこで、10月9・10日の2日間、ご愛顧頂いた利用者の皆様に感謝を申し上げ、入場料無料の『感謝

Day』を開催しました。また、リーダーO.B.らによる『ファイナルキャンプ』も9日～11日の3日間同時開催されました。

初日は朝から大雨。急きょイベント会場を屋内に移しお客様をお待ちしました。やがてファイナルキャンプの参加者が続々到着。親子で竹とんぼ作りやクラフトなどにチャレンジし大いに盛り上がり

ました。2日目は前日と打って変わって快晴となり参加者のみなさんにカヌーやアーチェリーなどのプログラムや竹とんぼ作りなど、心ゆくまで楽しんで頂くことが出来ました。

また、たき火で暖を取るためグ



竹とんぼ作りの様子

ラウンドに薪を組みました。斧で薪割りをするスタッフに子ども達の目は釘付け。『薪割り体験教室』は大人気となり、今日一番の盛り上がりとなりました。

本施設には約200haの森林があります。施設の管理は森林組合の手から離れますが、今後この森林をどのように管理していくのか注目していきたいと思っています。

大阪府土木事務所から道路沿いの森林の管理に関するお願い

大阪府内の7土木事務所管内では山間部を通る管理道路が数多くあります。

昨今、これらの道路における倒木や落石などの事案が多く寄せられています。

わたくしども土木事務所といたしましては、管理道路を日々パトロールし、危険箇所の把握とその解消に努めているところですが、道路沿いに山林を所有または管理されている林家の皆様におかれま

しても、今一度伐採した材木が雨や野生鳥獣により斜面を滑り落ちることはないか、また、枯れ木が強風などで倒木する恐れがないか

など、自主点検をしていただければ幸いです。

何卒ご理解とご協力方よろしくお願ひ申し上げます。

なお、私どもがパトロールにより事故防止の観点から直ちに適切な措置を講じなければならぬことも想定されます。その際、関係機関に連絡をさせていただき、林家の皆様に伐採等適切な措置の要請を行うこととしております。

しかしながら緊急を要し連絡をする時間がないときは、関係法令に基づき立入りの上、伐採をさせていただきますことがありますので、あら



大阪府のパトロール

かじめご理解いただきますようお願いいたします。

林業技術・安全作業講習会のお知らせ

年2回開催しています安全作業や林業技術に関する講習会の今回の開催が決まりましたのでお知らせします。是非この機会にご参加ください。

なお、準備の都合上お手数ですが事前に参加申込をお願いします。



AEDを使った救命講習の様子

■講習内容

- 枝打ち技術について
- 間伐等のかかり木処理について

■日時

平成22年12月9日（木）
午後1時30分～午後4時

■集合場所

木材共販所
（千早赤阪村大字中津原545-1）
TEL. 0721 (72) 7755

■服装

実習・作業のできる服装と履物をご用意ください。

■申込先

大阪府森林組合南河内支店
TEL. 0721 (63) 0850

木材市況

今年は、梅雨末期の長雨や記録的な猛暑など気象条件が大変厳しい中ではありましたが、共販所への出材量は昨年をやや上回る実績で推移しており、出材者の皆様に感謝申し上げます。

毎年、夏から秋にかけての時期は、だんじりのてこの部材として需要があり、ヒノキの元玉、長さ3～4m、末口14～16cmの直材が30,000円/㎡前後で取引されました。しかしながら、市況全体を見ますとスギの平均単価は前年同期と比べ9%下落しています。一方、ヒノキの平均単価はほぼ変動なく安値で推移していますが、やはり優良材の役物は値下がり傾向にあります。

組合では木材の販売ルートの多様化をはかるため、合板メーカーへの原木の販売を昨年度より進めており、また、府内産木材を原料とした型枠・構造用合板の販売も一部行っています。

■平成22年4月～平成22年9月期 販売実績と平均単価

樹種	取扱量 (㎡)	平均単価 (円)
スギ	561	9,910
ヒノキ	1,814	22,135
広葉樹	18	33,324

皮むき丸太買取ります。備蓄できる方募集中！



販売を待つ皮むき丸太

前号でも掲載しましたが、当組合では日頃から大阪府をはじめ市町村、関係団体等に対し、府内産木材の積極的な利用をお願いしています。

ロータリー丸太や製材品などの加工材を中心に取り扱いをしていますが、皮むき丸太のような自然材も少なからず需要があります。

しかしながら、需要と供給の時期的なズレから皮むき作業が困難を極め、必要時期に供給できないケースがあります。

できるだけ多くの府内産木材の利用を実現するために、組合員の皆様にもご協力を願い、皮むき丸太を生産、備蓄していただきたいと考えています。

引き続き下記の要領で買い取りますので、ご協力ご利用くださいますようお願いいたします。

○皮むき丸太備蓄供給方法

皮むき丸太の出荷可能時期と備蓄可能数量（見込）をお知らせください。受注状況にあわせ、買取りさせていただきます。

□皮むき丸太規格（スギ・ヒノキ）

末口9cm（8～10cm）長さ1.5m～2m
末口11cm（10～12cm）長さ1.5m～2m
その他の規格は、お問い合わせください

□買取価格例（組合施設までの運搬を含みます）

末口9cm 230円～ 末口11cm 290円～

□数量

各1000本程度

□納期

平成22年11月から平成23年3月ごろ

□お問い合わせ・お申込み

木材共販所（0721-72-7755）もしくは、豊能支店（072-734-0125）まで

日々活躍 組合職員紹介

今回は三島支店に勤務する寄瀬博美さんを紹介します。

寄瀬さんは、平成7年合併前の高槻市森林組合に採用となり、森林整備や緑化事業に従事していました。

その後、事業を拡大させていた森林リサイクル事業の現場担当となり、大型重機や破碎機オペレーターとして、その腕を年々磨き、ゼネコンの現場所長さんからも信頼され、大阪府内外を問わず多数のリサイクル業務の現場に携わってきました。

三島支店において、昨年度新規事業としてスタートした機械化林産事業に抜擢され、大型破碎機から小型の高性能林業機械にマシンを乗り換え、林産現場で日々新しい仕事にチャレンジしています。

林産事業はケガなど危険度の高い仕事ですが、ゼネコンの現場で安全管理の基礎を叩き込まれており、その経験が山の現場で大いに生かされています。

毎日山に入るようになった今年の夏、自殺の可能性のある人が林産現場近くの山に入ったとのことで、地元の警察の方と一緒に一日かけて周辺を捜し、結果、その方は無事発見・保護されました。この協力に対し警察署長から寄瀬さんに感謝状が授与されました。



寄瀬博美さん

本人談

山の仕事をされていて少しでも社会に役立つことができよかったと思います。（照れ笑）

2010 丸大の冬ギフト

ご贈答には、丸大のハム・ソーセージの詰め合わせをどうぞ。

お問い合わせ先 丸大食品（株）関西特販営業課
大阪市西成区津守2-1-10 TEL06-6657-0071

おいしさ新鮮

丸大食品